

2002/9/20

2002年度 原子核三者若手 秋の総会 三者総会議事録

文責：2003年度 三者事務局（新潟大学）

1 2002年度夏の学校決算見積もり (三者センター校:京都大学)

2002年度三者センター校より決算報告がなされた。

- 旅費補助に関する部分以外は確定できた。最終的な報告は後程 yonupa-MLで行う。

2 2001年度三者準備校:名古屋大学

2.1 決算報告(暫定)

2002年度三者準備校より決算報告がなされた。

- 郵送料(印鑑の郵送)に関しては未確定。
- 払い出し手数料は旅費補助が終わらないと確定できない。
- 学生旅費補助は174人が希望し、144人に支払いができた。

3 2002年度三者名簿校:千葉大学

2002年度三者名簿校より決算報告がなされた。

- 収入の「その他」の290円は、価格より多くの金額を支払った人がいたため。
- 払込み手数料は0円だった。(議案書の訂正)
- 振替料金として15円かかったのは、来年度担当校の早稲田大学さんに送金したため。

4 セクハラ対策WG

4.1 活動報告

セクハラ対策WGより活動報告がなされた。

- メンバーの募集、準備校との交渉、相談箱等の製作は事前準備として行った。
- 今年度WGのメンバーが集まらなかったため、役職校の代表者と対策会議を行った。

4.2 会計報告

セクハラ対策WGより会計報告がなされた。

- 収入の決算の金額が2124円であった。(議案書の訂正)
- 支出の、茶話会の決算の金額が1410円であった。(議案書の訂正)
- 次年度のWGのメンバーは集まった。

5 2003年度夏の学校予算案(三者センター校:筑波大学)

5.1 収入予定

2003年度三者センター校より収入予定の報告がなされた。(議案書の訂正)

	収入
前年度繰越金	1,450,000
基研(旅費)	500,000
基研(印刷費)	100,000
素G	450,000
参加費	800,000
〈合計〉	3,300,000

	支出
講師旅費	600,000
学生補助	850,000
運営費	400,000
繰越金	1,450,000
〈合計〉	3,300,000

- 素粒子論グループへの援助申請については、今年度は、各研究室が援助協力への呼び掛けに対してどのように対応するか様子を見るべきである。また、素粒子論グループから、従来より多くの援助を得ることには、現在、問題があると考えられる。以上の点から、今年度の素粒子論グループへの援助申請を45万円とした。

Q：学生補助が今年より少くないか？

A：今年度は講師旅費からまわすことにより多くできた。

6 2002年度の夏の学校開催地／開催時期について (三者準備校:北海道大学)

2003年度三者準備校より、2003年度の夏の学校開催地／開催時期の変更について提案、説明がなされた。

- メリット
 1. 宿泊費、食費が安く、個人の負担が減る
オリンピックセンターで開催の場合、全費用は15000円となる。木島平の場合は35000円であった。
 2. 交通の便が良い
- 日程の変更に伴う懸案
 1. 参加者の減少
他の研究会との重なることはなさそうであり問題はない。
 2. 次の役職校の負担
引き継ぎの時期を早めるなどの対策を議論する(次節の提案参照)。

申請中だった予約が可能になったことを受け、2003年度の開催地／開催時期について審議を行った。

Q：なぜ宿泊費がそんなに安くなるのか？

A：オリンピックセンターは青少年のための施設なので、料金が安く設定してある。

Q：オリンピックセンターに冷房はあるのか？

A：ある。

Q：日程を短くするのは予算の都合か？

A：アンケートで、開催期間は4、5日が良いという解答が多かったからである。

Q：もし、パノラマランドでやるのであれば、8月上旬に5泊6日でやることになるのか？

A：そうです。

Q：秋の学会での援助申請に対策は？

A：センター校と準備校は早めに引き継ぎをすること。援助申請が秋の学会以降でいいのかどうかを問い合わせ中。

意見： 秋の学会は報告が主旨なので、春にしっかり援助申請できればいいと思う。

Q： 日程を短すると中身が薄くならないか？

A： 講義、研究会は例年通りの数を行えるので、内容が薄くはならない。

Q： 参加人数は？

A： 素粒子：200人、原子核：160人、高エネ：80人の部屋を確保可能である。また最大300人使用可能な部屋もある。

審議の結果、この提案は賛成多数で可決された。
来年度夏の学校の開催地及び開催日程は議案書の通り可決された。

7 役職校の引き継ぎを早めることの申し合わせ (三者準備校:北海道大学)

先の開催地の決議を受け、2003年度三者準備校より、役職校の引き継ぎを早めることの提案がなされた。

Q： 具体的なシステムはどうするのか？

A： 夏の学校までに予算案を提出してもらおう。これからもMLやWGで議論していく。

意見： 補助申請については、今回の素粒子論委員会で聞いてみるべき。もし大丈夫であれば前倒しする必要はないと思う。

Q： これは2003年度に限った事情か？

A： 2004年度以降についてはMLやWGで議論していく。

意見： 早めに引き継ぐ必要があるものと、そうでないものを区別するべき。

今後、この件に関して積極的に議論していくことが確認された。